

1 成果

(1) 町全体としての成果

【教科に関する調査の結果から】

正答率の推移から、寒川町全体としては、各学校ごとの学力向上への取り組みにより、特に算数・数学において、年々全国平均点との差が確実に縮まってきており、本年度は、全国公立学校の平均正答率と同程度（±5ポイント以内）にほぼ収まる状況である。さらに、中学校数学Aでは全国平均をわずかではあるが上回る結果となった。

また、これまでに課題として挙げられていた無解答率についても年々確実に減少しており、「一定時間内に問題を解くスタイルになれていない」という点については、改善が見られ安定してきている。

さらに、算数・数学においては、課題として挙げられていた内容・項目について、確実に理解・定着が見られており、今後も継続して指導の充実を図ると共に、継続して指摘されている課題についての取り組みが求められる。

一方、国語に関しても、小学校A・B問題については、平成20年度以来悉皆調査において毎年全国平均との差をつめており、小学校B問題は本年度、全国平均正答率と同程度（±5ポイント以内）に入る伸びを見せている。同様に中学校国語Aについても、平成21年度悉皆調査以来悉皆調査において毎年全国平均との差をつめており、本年度は、全国平均正答率と同程度（±5ポイント以内）に入ることができた。

国語、算数・数学共に、教師の取り組みが第一に挙げられる。小学校では学年を中心に、中学校では学年・教科を中心に、授業力向上への日々の研鑽、興味関心を沸き立たせる授業展開、集団としての学びの充実、児童生徒一人ひとりに対応した指導等の成果が実質的な数値として発露してきていると考えられる。

また、思考力・判断力・表現力に密接した校内研究における取り組み、学校全体の運営に関わっての取り組み、学級や教科をこえた学年・学校としての連携、35人学級、少人数指導による取り組み、補充学習の取り組み、「地域のせんせい」の人材活用などが効果を上げている。

また、町教育研究員研究部会作成の「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）を小中全8校が取り組み、学年末における成果と課題の分析を行い、次年度へつなげていることが基礎力の確実な定着につながっている。「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」についても、学校ごとに結果の分析・対策の検討などを行っている。このように、複数方向から児童生徒の実態把握を行い、指導における重点項目や授業の改善点の明確化につながっている。

さらに、平成23・24年度「寒川 学びっ子育成推進事業」による全小中学校の研究推進と連携を受けての各学校間での校内研究の交流（他校の教員が参加できる校内研究体制）、平成25年度町教職員研修会第3回「子どもの学力を伸ばす授業の技（上智大学教授：奈須正裕氏）」、第4回「授業づくりの基本Ⅱ（元日本大学：岩田満氏）」など、教職員の授業力向上へ向けての取り組みも成果につながっていると考えられる。

【児童・生徒質問紙調査の結果から】

本年度特筆すべきことは、児童・生徒質問紙調査の結果から、寒川町の児童生徒の生活において、また内的な心情面において、目を見張る数値の変化があったことである。

朝食の喫食率や、家族とのコミュニケーションは良好であり、「読書が好き」「学校に行くのは楽しい」「出された宿題はよくやる」と答えている児童生徒は、依然として全国とほぼ同様の傾向である。

本年度は、自尊意識について、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「自分にはよいところがある」といった項目において、町全体として数値が上がっており、一部全国平均を超えるものもある。

また、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」「友だちとの約束を守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」が100%という学校もあり、全体的に、自尊意識、規範意識などの数値が上がっていることが、教科の授業だけでなく、児童・生徒指導、ひいてはより良い学校づくりに向けて取り組んでいる成果が着実に現れている。

国語、算数・数学の正答率を上げていくことはもちろん大切なことであるが、寒川町の児童・生徒の内面における、自尊意識、規範意識等の高揚は、人間形成・人格形成において最も注視すべきことであると考えます。今後とも、未来を担う寒川町の子どもたちに「生きる」活力となるこれらの意識を高めていきたい。

2 学校が取り組むべき課題

(1) 現状の正確な把握・分析、課題の明確化と対応策（方針）の検討

- ・ 自校の弱点、成果を正確に把握し、それぞれの要因についての考察を行う。
- ・ 担当教科や学級担任のみの分析とせず、学校全体としての組織的な分析を実施する。
- ・ 分析から課題を明確化し、全教職員で課題を共有化する。
- ・ 課題から対応策を立て、全職員で対応策（方針）を共有化し、実現を図る。
- ・ 特色ある学校づくりを行うことと、学力の伸長との連携を図り、学校における学力向上の位置付けを明確に行う。

(2) 基礎的・基本的事項の定着へ向けての取り組み

- ・ 授業者が、各単元や各授業における基礎・基本を明確に自覚する。
- ・ 基礎・基本に焦点を明確化させた授業を行う。
- ・ 授業開始時にめあてや目標（めあて・ねらい）を提示し、授業の最後に学習内容を振り返る活動をより多く行っていく。
- ・ 授業の中で、スパイラルな学習の機会をつくる。
- ・ 授業の中や課外における補充的な学習の機会をつくる。
- ・ 授業の中や課外において、ドリル的な反復練習の機会を設ける。
- ・ 小学校においては、客観的なテストを取り入れ形式に慣れさせる。
- ・ 「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の学年内実施と結果分析、考察、対応策検討を行う。

(3) 思考力・判断力・表現力の育成、活用の力の伸長をはかる授業づくり

- ・ 毎時間における、めあてや目標・課題の明示、まとめの活動や振り返り活動の実施。
- ・ 学ぶ楽しさ・意義・有用性を実感できる授業をつくる。
- ・ 多様な言語手段を用いて、書くこと、表現することを重視する。
- ・ それらを他の子どもたちや教師に伝え合う機会、説明する機会を保障する。
- ・ 教科外の活動においても、上記の視点を取り入れて活動させる。
- ・ 校内のテストや評価においても、出題方法、解答方法に工夫を加え、B問題のような設問にも慣れさせる。

(4) 家庭学習の定着化へ向けての取り組み

- ・ 生活の基本習慣の安定をはかる指導を充実させる。
- ・ 家庭学習の方法を具体的に教える。
- ・ 授業での学習と家庭学習を結びつけるために、宿題を適切に与える。
- ・ 宿題作成を、教科担当や担任に任せずに、学年・学校で取り組む。
- ・ 家庭と連携した指導をはかる。

(5) 自己肯定感・自己有用感を育み、規範意識を育成する取り組み

- ・ 「自分に誇りをもてる」「人の役に立ちたい」というような気持ちをもつ子どもは学力も高い傾向がある。自己肯定感、自己有用感を育む指導をはかる。
- ・ 児童、生徒指導を充実させ、規律のある教室・学校をつくと共に、規範意識を相互に高め合うことのできる指導を構築する。

3 教育委員会が取り組むべき課題

(1) 授業力の向上に資する事業の展開

- ・学校を越えた研究交流の推進
- ・教職員研修会
- ・年次研修会
- ・校長会、教頭会における協議、情報交換、取り組みの検討
- ・他

(2) 研究員研究会での研究推進と普及

- ・教育課題研究部会
- ・指導法改善研究部会
- ・教材等開発研究部会
- ・児童生徒指導研究部会

※「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」の改訂

※「書く力の育成を目指した指導の工夫」

(3) 多面的な学力・学習状況の分析

- ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の結果の町としての分析
- ・「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」結果の町としての分析
- ・補助教材の有効活用

(4) 指導主事による指導、援助の充実化

- ・各校の調査結果の共同分析、対策検討
- ・月例訪問
- ・校内研究会での指導、助言
- ・他

(5) 計画訪問の充実化

- ・各校における校内研究と連動した指導案の作成、授業実践
- ・一授業一人以上の指導主事配置のために湘南三浦教育事務所との連携
- ・分科会での協議の充実

(6) その他

- ・「授業改善へ向けての7つの視点」の作成、提示
- ・eライブラリの導入による授業向上・分析、家庭教育推進
- ・若い教師を中心とした自主学習会への援助
- ・「地域のせんせい」の有効活用

授業改善へむけての7つの視点

「当たり前のこと」を再確認することから

寒川町教育委員会

① 授業のポイントの明確化・顕在化をはかる

- ・ 本時の目標の顕在化…単元名や内容項目だけではなく子どもの学びを明確にする
- ・ 子どもの活動と指導の流れの確認…何となく進めるのではなく、授業の流れを事前にイメージする
- ・ ふりかえりと評価のある授業…やりっぱなしにせず、要所で児童生徒も教師も授業をふりかえる

② 板書の充実をはかる

- ・ 黒板の不要掲示物を整理してから授業を始める
- ・ 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい・課題・問題）の提示をする
- ・ やり方の提示だけでなく、子どもの発言、意見や考えを書く
- ・ 授業のおわりに、結果や考察やまとめの提示をする

③ 言語活動の基礎となる場面を取り入れる

- ・ 「自分の考え」をもたせたり、書かせたりするためのステップがある
- ・ 隣の席の人やグループや全体で、考えを表明する場がある
- ・ 決定したり判断したり、自分の考えを再考する場がある

④ 言語環境の整備をおこなう

- ・ 教師の話し方・聞き方の点検（言葉遣い・表情・抑揚・間の取り方など）をおこなう
- ・ 児童生徒の話し方・聞き方の指導をおこなう
- ・ 音読のしかたの指導をおこなう
- ・ ノートやメモの取り方、自分の意見の書き方、資料の読み取り方などの指導をおこなう
- ・ 理由や根拠をあげながら説明する機会を積極的に取り入れる

⑤ 多様な学習形態から必要なものを選択する

- ・ 机間指導・個別指導をする
- ・ 必要に応じて、特別教室等の選択、机の配置や向き等を変える
- ・ ペアや3～4人程度のグループでの活動を取り入れる

⑥ 教材教具やワークシートを工夫する

- ・ 学びを支援するために、様々なアイテムを検討し、効果的に使う
- ・ ICT機器（学習用パソコン・実物投影機など）を積極的に活用する
- ・ 一人ひとりの教師が使用・作成したものをデータベース化し共有化をはかる

⑦ 授業前後や日常生活における学習への支援をおこなう

- ・ 授業の目標に到達していない児童生徒への対応の早期実行
- ・ 漢字や計算等、意欲的に反復練習することができる工夫と取り組み
- ・ 家庭学習（予習・復習）への支援、宿題の習慣化
（教師単独で取り組むだけではなく、教科・学年・学校での取り組みとして）

